

2013年度 前期				リフレクションペーパー			
学科名	電気通信工学科						
科目名	応用数学 I						
科目区分	専門科目		単位数	2	開講時期	2年前期	
必修・選択の別	選択必修科目(組込みシステムコース)／選択必修科目(電気エネルギーコース)／選択必修科目(情報システムコース)						
担当者	中野 吉正						
授業の到達目標 (シラバスから)	・与えられた系がしたがう運動を微分方程式として書き下すことができる。 ・境界条件(初期条件)を用いて積分定数が固定できる。 ・2階線型微分方程式の一般解を求めることができる。 ・極座標と直角座標の関係を書き下せる。 ・極座標を用いて曲線の長さ、領域の面積や体積などを計算できる。						
日程と内容	4/11 導入・微分方程式とは 4/18 完全型・変数分離型 4/25 同時型・電磁気学と回路理論への応用 5/ 2 変数分離型の応用 5/ 9 2階の線形微分方程式 5/16 交流回路への応用 5/23 演習問題(1) 5/30 演習問題(2) 6/ 6 多重積分とは 6/13 ヤコビアン 6/20 応用問題 6/27 これまでの復讐 7/ 4 応用(重心・慣性モーメント) 7/11 応用(電荷分布と電場) 7/18 定期試験 7/25 総合復習						
成績評価基準	定期試験	60%	実技				
	臨時試験		部外評価				
	報告書・レポート		プレゼンテーション				
	課題 演習	40%	計	100%			
授業到達目標の達成度	当初の到達目標は講義を通しておおむねカバーできた。						
反省点	この科目は今年度が初めての授業であったため、時間の割り振りがうまくできなかった。これは、前半に欠席が多かったことにもよる。結果として、復習の形式で講義内容をまるまる繰り返さなければならないことがあった。この点は受講生の方に反省を求めたい。						
来年度の計画	今年度に同じ。ただし、もう少し多い受講生を期待する。						
授業評価アンケートに対するコメント	きわめて少人数の授業で、学生には評判がよかったようだが、実際に受講した学生が少人数クラスの利点を有効に活用したとは思えない。一人の欠席でもクラス全体としての理解度が危ぶまれ講義の進行が必然的に遅れるからである。						
履修登録者数	6 名	定期試験 受験者数	4 名	合格者数	4 名	合格率	100%